

ソチオリンピックにおける新聞報道の分析 (2)

—競技種目別に着目して—

山本清文*・中村浩也**・武内麻美***

1 諸言

これまでOGの新聞報道に関する研究は様々なされているが、その内容は、日本選手団に関する新聞報道の動向、報道のシステムや中継における研究、ガバナンス、ジェンダー、選手の弱さや課題等の研究である。また、冬季オリンピックにおける新聞報道の研究は少なく、OGにおける招致に関する新聞報道の検討などの研究があるのみである。新聞報道の面積と性別等の分析は夏季OGに一部あるものの、冬季OGにおける研究はほとんどないのが現状である。

第1報では、競技別に掲載面積を測定した。その内容は、競技別に全記事面（記事＋写真）、記事全面、男性記事、女性記事、両性記事（男女混合種目、男女総合団体種目）、写真全面、男性写真、女性写真、両性写真（男女混合種目、男女総合団体種目）の面積をそれぞれ測定し分析した。

本研究は、新聞紙面の掲載面積を、種別に細分化し、性別に全記事面積、記事面積、写真面積を測定し、その特徴や掲載面積の実際を把握することを目的とした。

2 研究方法

(1) 調査対象

大会期間中の（2月7日〔金〕の開会式から2月25日〔火〕閉会式の翌日までの19日間）の主要1紙（日本で1番の出版部数、約1000万部以上を誇る読売新聞の日刊）を対象に、一面およびスポーツ面におけるオリンピック関連記事（コラムは除く）の紙面の面積を測定した。その内容は、競技別に全記事面（記事＋

花園大学* プール学院大学** 玉川大学***

写真)、記事全面、男性記事、女性記事、両性記事(男女混合種目、男女総合団体種目)、写真全面、男性写真、女性写真、両性写真(男女混合種目、男女総合団体種目)の面積をそれぞれ測定し分析した。

(2) 分析方法

調査項目は、冬季OG14種目の、全記事面、記事全面、男性記事、女性記事、両性記事(男女混合種目、男女総合団体種目)と、写真全面、男性写真、女性写真、両性写真(男女混合種目、男女総合団体種目)に分類しそれぞれの面積を測定した。

① 種目の分類

種目の分類は、アルペン、クロスカン トリー、ジャンプ、ノルディック複合、フリースタイル、スノーボードの6種目がスキー競技であり、スピードスケート、フィギュアスケート、ショートトラックの3種目がスケート競技である。そして、ホッケー、バイアスロン、ボブスレー、リュージュとカーリングの14種目で測定した。

(3) データの処理

データの処理は、Microsoft社のexcel 2010により項目ごとに、単純集計およびクロス集計を行なった。

3 結果

(1) 種別全記事面積

種目別に、全記事面積(記事+写真)と割合を掲載面の大きい順に見てみると、フィギュアが25532cm²(34%)、スノーボード11769cm²(16%)、ジャンプ7187cm²(10%)、ノルディック複合6519cm²(9%)、スピードスケート5309cm²(7%)、カーリング6223cm²(8%)、ホッケー4713cm²(6%)、フリースタイル3094cm²(4%)、アルペン1328cm²(2%)、ショートトラック1276cm²(2%)、クロスカン トリー778cm²(1%)、ボブスレー540cm²(1%)、バイアスロン214cm²(0%)、リュージュ14cm²(0%)、全記事面積は74496cm²(100%)であった。

フィギュアが25532cm²と1番掲載面積が大きく全体の34%を占めていた。次いでスノーボードが11769cm²で、全体の16%で、ジャンプ7187cm²と全体の10%以上の種目は3種目で、フィギュアが34%と群を抜いて大きく、次に16%でスノーボード、ジャンプ10%であった。また、5%以上10%未満の種目は、ノルディック複合が9%で、スピードスケート7%、カーリング8%、ホッケー6%の4種目であった。その他、5%以下は、アルペン2%、クロスカントリー1%、フリースタイル4%、ショートトラック2%、バイアスロン0%、ボブスレー1%、リュージュ0%、の7種目であった。

図1 種目別全記事面積

(2) 性別全記事面積と割合

全記事面積を男性、女性、両性別に面積と割合を見てみると、男性記事面積32749cm² (44%)、女性記事面積34249cm² (46%)、両性記事面積7498cm² (10%)と、女性記事面積が一番大きいことがわかった。

記事面積を男性、女性、両性別に面積と割合を見てみると、男性記事面積22829cm² (43%)、女性記事面積22942cm² (43%)、両性記事面積7191cm² (14%)であった。男性記事面積と女性記事面積の割合は同じであるが、女性記事面積のほうがやや大きいことがわかった。

写真面積を男性、女性、両性別に面積と割合を見てみると、男性写真面積9920cm² (46%)、女性写真面積11300cm² (53%)、両性写真面積307cm² (1%)と、女性

写真面積が大きいことがわかった。

記事面積、写真面積ともに男性、両性よりも女性のほうが大きいことがわかった。

図 2 性別全記事面積

図 3 性別記事面積

図 4 性別写真面積

(3) 種目別性別全記事面積

種目別性別全記事面積と割合は、フィギュアが男性全記事面積 10111cm²、女性全記事面積 10378cm²、両性全記事面積 5043cm²と全ての種目別、性別において最も大きく、フィギュア種目の中では、女性全記事面積が男性全記事面積よりやや大きく、両性全記事面積は女性全記事面積と男性全記事面積の約半分の面積であった。

次に、スノーボードは男性全記事面積 5640cm²、女性全記事面積 5948cm²、両性全記事面積 181cm²で、スノーボード種目の中では、女性全記事面積が男性全記事面積よりわずかに大きく、両性全記事面積は 181cm²と 30 分の 1 以下であった。

ジャンプを性別で見ると、男性全記事面積 4679cm²、女性全記事面積 1772cm²、両性全記事面積 736cm²ジャンプ種目では男性記事が一番大きく、次いで女性記事であった。

ノルディック複合を性別で見ると、男性全記事面積 6519cm²、女性全記事面積 0cm²、両性全記事面積 0cm²はであった。

スピードスケートを性別で見ると、男性全記事面積 1531cm²、女性全記事面積 2622cm²、両性全記事面積 1156cm²と女性、男性、両性の全記事面積の順であった。

カーリング、男性全記事面積 183cm²、女性全記事面積 5658cm²、両性全記事面積 382

cm²で、性別でみると女性、男性、両性の全記事面積の順であった。

ホッケーは、男性全記事面積 980cm²、女性全記事面積 3733cm²、両性全記事面積 0cm²であった。性別でみると女性、男性、両性の全記事面積の順であった、この種目も日本は女性しか出場をしていないが、女子の種目全体では4番目に大きかった。

図5 種目別性別全記事面積

(4) 種目別記事面積

種目別に、記事面積（記事のみ）と割合をグラフの順に見てみると、アルペン 899cm²（2%）、クロスカン トリー 634cm²（1%）、ジャンプ 5274cm²（10%）、ノルディック複合 4661cm²（9%）、フリースタイル 1741cm²（3%）、スノーボード 8174cm²（15%）、スピード 4095cm²（8%）、フィギュア 18666cm²（35%）、ショートトラック 1090cm²（2%）、ホッケー 3445cm²（7%）、バイアスロン 185cm²（0%）、ボブスレー 476cm²（1%）、リュージュ 14cm²（0%）、カーリング 3615cm²（7%）、全種目を合計すると 52969cm²（100%）であった。

記事面積も、フィギュアが 18666cm²（35%）と群を抜いて1番大きく、次に、スノーボードが 8174cm²（15%）と2番目であった。しかし、1番のフィギュアの半分以下の値であった。3番目は、ジャンプの 5274cm²（10%）であり、フィギュアの3分の1以下の掲載面積であった。

フィギュアが全体の35%と群を抜いて大きく、次に15%でスノーボード、そして、ジャンプ10%とノルディック複合9%で、スピードスケート8%、カーリング7%、ホッケー7%、その他5%以下と、5つの群に分かれることが分かった。

記事面積のみも、全記事面積とほぼ同様に、全体の10%以上の種目はフィギュアが35%と群を抜いて大きく、次に15%でスノーボード、ジャンプ10%の3種目で、また、5%以上10%未満の種目は、ノルディック複合が9%で、スピードスケート8%、カーリング7%、ホッケー7%の4種目であった。その他、5%以下は、アルペン2%、クロスカントリー1%、フリースタイル4%、ショートトラック2%、バイアスロン0%、ボブスレー1%、リュージュ0%、の7種目であった。

図6 種目別記事面積

(5) 種目別性別記事面積

種目別性別記事面積と割合は種目別性別記事と同様に、フィギュアが男性記事面積6649cm²、女性記事面積7281cm²、両性記事面積4736cm²と全ての種目別、性別において最も大きく、フィギュア種目の中では、女性記事面積が男全記事面積より大きく、両性記事面積も4736cm²と種目別、性別のいずれにおいても3番目に大きな掲載面積であった。

次に、スノーボードは男性記事面積4020cm²、女性全記事面積3973cm²、両性記事

面積 181cm²で、スノーボード種目の中では、女性全記事面積が男性全記事面積よりわずかに大きかった。

ジャンプを性別でみると、男性記事面積 3362cm²、女性記事面積 1176cm²、両性記事面積 736cm²、ジャンプ種目では男性記事が一番大きく、女性の3倍近い記事面積であることがわかった。ジャンプは男女とも前評判が高かったものの、結果によるところの差が出たのではないかと考えられる。

ノルディック複合を性別でみると、男性記事面積 4661cm²、女性記事面積 0cm²、両性記事面積 0cm²は、男性記事面積のみ全体の4番目であることは、注目の高さとも結果の表れであると思われる。

スピードスケートを性別でみると、男性記事面積 1079cm²、女性記事面積 1860cm²、両性記事面積 1156cm²と女性、両性、男性の記事面積の順であった、両性記事については、混合種目はないが、記事として混合して書かれていたためと考えられる。

カーリングは、男性記事面積 131cm²、女性記事面積 3102cm²、両性記事面積 382cm²で、性別でみると女性、両性、男性の全記事面積の順であった。

ホッケーは、男性記事面積 584cm²、女性記事面積 2861cm²、両性記事面積 0cm²であった。性別でみると女性、男性、両性の全記事面積の順であった。女子の種目全体では4番目に大きく、全体でも9番目に大きかった。

図7 種目別性別記事面積

(6) 種目別全写真面積

種目別に、写真面積（写真のみ）と割合をグラフの順に見てみると、アルペン 429cm²（2%）、クロカン 144cm²（1%）、ジャンプ 1913cm²（9%）、ノルディック 1858cm²（9%）、フリースタイル 1353cm²（6%）、スノーボード 3595cm²（17%）、スピード 1214cm²（6%）、フィギュア 6866cm²（32%）、ショートトラック 186cm²（1%）、ホッケー 1268cm²（6%）、バイアスロン 29cm²（0%）、ボブスレー 64cm²（0%）、リュージュ 0cm²（0%）、カーリング 2068（12%）、全種目を合計すると合計 21527cm²（100%）

写真においてもフィギュアは32%と圧倒的に掲載面積が大きく、次いで、スノーボード17%と2番目に大きく、3番目にカーリング、ジャンプとノルディックがともに9%で4番目に大きく、フリースタイルとホッケー、スピードスケートが6%で、その他の種目は2%以下であった。

全体の10%以上の種目はフィギュアが32%と群を抜いて大きく、次にスノーボード17%とカーリングの17%の3種目で、また、5%以上10%未満の種目は、ジャンプとノルディック複合が9%で、フリースタイルが7%、スピードスケートとホッケーが6%の5種目であった。その他、5%以下は、アルペン2%、クロスカントリー1%、ショートトラック1%、バイアスロン0%、ボブスレー0%、リュージュ0%、の6種目であった。

図8 種目別全写真面積

(7) 種目別性別写真面積

種目別性別写真面積と割合は種目別性別記事と同様に、フィギュアが男性写真面積 3462cm²、女性写真面積 3097cm²、両性写真面積 307cm²と全ての種目別、性別において最も大きく、フィギュア種目の中では、男性写真面積が女性写真面積よりもやや大きい結果となった。

次に、スノーボードは男性写真面積 1620cm²、女性写真面積 1975cm²、両性写真面積 0cm²で、スノーボード種目の中では、女性写真面積が男性写真面積よりわずかに大きかった。

ジャンプを性別でみると、男性写真面積 1317cm²、女性写真面積 596cm²、両性写真面積 0cm²、ジャンプ種目では男性記事が一番大きく、女性の2倍強の面積であることがわかった。記事面積では男性は女性の約3倍の面積であったが、写真面積では2倍と、女性写真の写真面積が記事面積と比べると大きいことがわかった。

ノルディック複合を性別でみると、男性写真面積 1858cm²、女性写真面積 0cm²、両性写真面積 0cm²で、男性写真面積全体の2番目であった。

スピードスケートを性別でみると、男性写真面積 452cm²、女性写真面積 762cm²、両性写真面積 0cm²と女性、男性、両性の写真面積の順であった。

カーリングは、男性写真面積 52cm²、女性写真面積 2556cm²、両性写真面積 0cm²で、性別でみると女性、男性、両性の写真面積の順であった。圧倒的に女子の面積が大きく、女性写真記事全体で2番、男女合わせても3番目の面積の大きさであった。

ホッケーは、男性写真面積 396cm²、女性写真面積 872cm²、両性写真面積 0cm²であった。性別でみると女性、男性、両性の全写真面積の順であった、この種目も日本は女性しか出場をしていないにもかかわらず、男性写真面積は女性写真面積の約2分の1であるという事は、男性のホッケーの人気を伺わせるものと捉えることもできる。女子の種目全体では4番目に大きく、全体でも9番目に大きかった。

図9 種目別性別全写真面積

(8) 種目別男性記事と写真面積及び割合

男性のみ記事面積と割合、写真面積と割合、記事+写真面積と割合(表-1)を見てみると、フィギュアが記事面積と割合6649cm²(29%)で1位、写真面積と割合は3462cm²(35%)で1位、記事+写真面積と割合も10111cm²(31%)で1番の掲載面であった。2番目のノルディックも記事面積と割合4661cm²(18%)、写真面積と割合1858cm²(16%)、記事+写真面積と割合6519cm²(20%)であった。3番目に、スノーボードで記事面積と割合は4020cm²(18%)、写真面積と割合は1620cm²(16%)、記事+写真面積と割合は5640cm²(17%)であった。次に、ジャンプの記事面積と割合3362cm²(15%)、写真面積と割合1317cm²(13%)、記事+写真面積と割合4679cm²(14%)のいずれも4番目であった。5番目のスピードスケートと6番目のアルペンにおいては、写真面積において順位が逆転していた。

男子の掲載面積においては、平均して30%以上のフィギュアが群を抜いて、次いでノルディックの約20%、スノーボードの17%、ジャンプの14%と4つの種目で80%以上の掲載面積であることが分かった。この4種目は、いずれもメダルを獲得している種目であった。

記事面積と写真面積の割合を見てみると、ほぼ同じ割合か、写真面積の割合より、記事面積の割合の方がやや大きい。

表1 種目別男性記事と写真面積の割合および順位

種目	記事男性			写真男性			記事+写真		
	cm ²	(%)	順位	cm ²	(%)	順位	cm ²	(%)	順位
アルペン	899	(4%)	6	429	(4%)	6	1328	(4%)	6
クロカン	261	(1%)	11	22	(0%)	12	283	(1%)	11
ジャンプ	3362	(15%)	4	1317	(13%)	4	4679	(14%)	4
ノルディック複合	4661	(20%)	2	1858	(19%)	2	6519	(20%)	2
フリースタイル	352	(2%)	9	194	(2%)	8	546	(2%)	9
スノーボード	4020	(18%)	3	1620	(16%)	3	5640	(17%)	3
スピード	1079	(5%)	5	452	(5%)	5	1531	(5%)	5
フィギュア	6649	(29%)	1	3462	(35%)	1	10111	(31%)	1
ショートトラック	509	(2%)	8	82	(1%)	9	591	(2%)	8
ホッケー	584	(3%)	7	396	(4%)	7	980	(3%)	7
バイアスロン	36	(0%)	13	0	(0%)	13	36	(0%)	13
ボブスレー	272	(1%)	10	36	(0%)	11	308	(1%)	10
リュージュ	14	(0%)	14	0	(0%)	13	14	(0%)	14
カーリング	131	(1%)	12	52	(1%)	10	183	(1%)	12
計	22829	100%		9920	100%		32749	100%	

(9) 種目別女性記事面積と写真面積の割合

女性のみ記事面積と割合、写真面積と割合、記事+写真面積と割合（表一2）を見てみると、フィギュアが記事面積と割合は7281cm²（32%）、写真面積と割合は3097cm²（27%）、記事+写真面積と割合も、10378cm²（30%）で全てにおいて1番大きな掲載面であった。

2番目のスノーボードの記事面積と割合は3973cm²（17%）で2番目、写真面積と割合は1975cm²（17%）で3番目、記事+写真面積と割合を見てみると5948cm²（17%）で2番目の総合で2番目、3番はカーリングで記事面積と割合は3102cm²（14%）で3番目、写真面積と割合は2556cm²（23%）でフィギュアに次いで2番目、記事+写真面積と割合では、5658cm²（14%）と総合で3番目の面積であった。4番目のホッケーは記事面積と割合は2861cm²（12%）スノーボードに次いで3番目で、写真面積と割合は872cm²（8%）とフリースタイルに次いで5番目、記事+写真面積と割合は3733cm²（11%）と総合で4番目となった。

女子の掲載面積においては、フィギュアが（32%）、スノーボード（17%）、カー

リング（14%）、ホッケー（12%）と4種目で75%あった。

次に、1番目であるフィギュアの記事面積と写真面積を見てみると、約2：1の割合で写真面積より、記事面積の方が大きかった。2番目のスノーボードも約2：1の割合で、フリースタイルとカーリングにおいては、記事面積のほうが多少大きいものの写真面積の差は少なかった。

表2 種目別女性記事と写真面積の割合および順位

種目	女性記事			女性写真			記事+写真		
	cm ²	(%)	順位	cm ²	(%)	順位	cm ²	(%)	順位
アルペン	0	(0%)	10	0	(0%)	12	0	(0%)	12
クロカン	373	(2%)	8	122	(1%)	8	495	(1%)	9
ジャンプ	1176	(5%)	6	596	(5%)	7	1772	(5%)	7
ノルディック複合	0	(0%)	10	0	(0%)	12	0	(0%)	12
フリースタイル	1389	(6%)	5	1159	(10%)	4	2548	(7%)	6
スノーボード	3973	(17%)	2	1975	(17%)	3	5948	(17%)	2
スピード	1860	(8%)	4	762	(7%)	6	2622	(8%)	5
フィギュア	7281	(32%)	1	3097	(27%)	1	10378	(30%)	1
ショートトラック	581	(3%)	7	104	(1%)	9	685	(2%)	8
ホッケー	2861	(12%)	3	872	(8%)	5	3733	(11%)	4
バイアスロン	149	(1%)	10	29	(0%)	10	178	(1%)	11
ボブスレー	204	(1%)	9	28	(0%)	11	232	(1%)	10
リュージュ	0	(0%)	10	0	(0%)	12	0	(0%)	12
カーリング	3102	(14%)	3	2556	(23%)	2	5658	(17%)	3
計	22949	(100%)		11300	(100%)		34249	(100%)	

(10) 種目別両性記事と写真面積と割合

両性のみ記事面積と割合、写真面積と割合、記事+写真面積と割合（表-3）を見てみると、フィギュアの記事面積と割合は、4736cm²（66%）、写真面積と割合は307cm²（100%）、記事+写真面積5043cm²（67%）と全てにおいて1番大きな掲載面積であった。次にスピードスケートの記事面積と割合は、1156cm²（16%）、写真面積と割合は0cm²（0%）、記事+写真面積1156cm²（16%）といずれも2番目の掲載面積であった。3番目のジャンプも記事面積と割合は736cm²（10%）、写真面積と割合は0cm²（0%）、記事+写真面積は736cm²（10%）といずれも3番目の掲載面積であっ

た。

両性の掲載面積においては、フィギュア（67%）、スピードスケート（15%）、ジャンプ（10%）の3種目で92%であることが分かった。

フィギュア（67%）と大きく取り上げられている理由は、シングルが話題先行する中、アイスダンスやペアなど見どころが満載した影響や、ショートプログラムとフリープログラムの選手の起用などによる戦術も相まって、紙面上の写真掲載も大きくなったと考えられる。

表3 種目別両性記事と写真面積の割合および順位

種目	両性記事			両性写真			記事+写真		
	cm ²	(%)	順位	cm ²	(%)	順位	cm ²	(%)	順位
アルペン	0	(0%)	6	0	(0%)	2	0	(0%)	6
クロカン	0	(0%)	6	0	(0%)	2	0	(0%)	6
ジャンプ	736	(10%)	3	0	(0%)	2	736	(10%)	3
ノルディック複合	0	(0%)	6	0	(0%)	2	0	(0%)	6
フリースタイル	0	(0%)	6	0	(0%)	2	0	(0%)	6
スノーボード	181	(3%)	5	0	(0%)	2	181	(2%)	5
スピード	1156	(16%)	2	0	(0%)	2	1156	(15%)	2
フィギュア	4736	(66%)	1	307	(100%)	1	5043	(67%)	1
ショートトラック	0	(0%)	6	0	(0%)	2	0	(0%)	6
ホッケー	0	(0%)	6	0	(0%)	2	0	(0%)	6
バイアスロン	0	(0%)	6	0	(0%)	2	0	(0%)	6
ボブスレー	0	(0%)	6	0	(0%)	2	0	(0%)	6
リュージュ	0	(0%)	6	0	(0%)	2	0	(0%)	6
カーリング	382	(5%)	4	0	(0%)	2	382	(5%)	4
計	7191	(100%)		307	(100%)		7498	(100%)	

4 考察

種別全記事面積、種別記事面積、種別全写真面積、種別性別面積いずれも1番掲載面積が大きい種別はフィギュアであった。フィギュアは前評判の高い選手が多くいる種目だけに、結果のみではなく事前の期待度の大きさも表れていると思われる。また、結果を見ても、個人種目では、男女合わせて6名の出場選手うち5名が8位以内の入賞しており、男子個人種目においては、日本で初の優勝を果た

した功績に対する社会的な影響力も大きく、また、団体戦と新しい種目も増えたことにより紙面上の掲載面積がさらに大きくなったと考えられる。種別全記事面積が2番目のスノーボードにおいては、男子2名が銀および銅メダルの獲得、女子も銀メダルを獲得したところの成績の影響によるものと考えられる。また、近年若者のスノーボード人気や最年少メダリストなどの呼び声も高いことが、社会に反映しているものと考えられる。ジャンプも、男子の個人が銀メダル、団体は銅メダル獲得という結果もあるが、男子のみならず、女子のジャンプ種目の導入と共に選手の期待には前評判が高いことが考えられる。

種別性別全記事面積では、フィギュア、スノーボード以外に、男子ノルディック、女子カーリング、男子ジャンプの順で掲載面積が大きかった。ジャンプとノルディック複合は、メダル獲得が男性のみであった結果と考えられる。カーリングは、メダルは逃したものの入賞し、前評判や期待度の高まりがあったものと考えられる。

結果的には、優勝者やメダリスト、そして入賞者が多い種別の面積が順に大きく、また、競技前の期待される選手や種別が、社会の反映にともない掲載面積の大きさに繋がっていると考えられる。

5 結 語

- 1) 種目別の全記事面積（記事＋写真）の割合は、全てにおいてフィギュアが約34%と14種別の中で最も大きな値を示した。
- 2) 男性のみの全記事面積では、フィギュアが10111cm²と1番大きく、次いでノルディックの6519cm²、3番目が、スノーボード5640cm²の順であった。
- 3) 女性のみで全記事面積では、フィギュアが10378cm²と1番大きく、次いでスノーボードの5948cm²、カーリング5658cm²の順であった。
- 4) 種目別性別全記事面積は、男性、女性、両性ともにフィギュアが1番大きかった。

参考文献

- (1) 粟木 一博ほか「バンクーバーオリンピックにおける日本選手団に関する新聞報道

- の動向について」『日本体育学会大会予稿集』第62号、2011年、237頁
- (2) 清水 義浩「シドニーオリンピックにおけるハイビジョン中継」『映像情報メディア学会誌：映像情報メディア』第55巻第2号 2001年、199 - 202頁
 - (3) 長野 健一郎「アトランタオリンピックハイビジョン中継システムについて：ハイビジョン新型中継車と番組伝送」『テレビジョン学会技術報告』第20巻第48号 1996年、25 - 30頁
 - (4) 中村 祐司「2008年北京オリンピック大会をめぐるガバナンス政策の特質 - 新聞報道を素材にして -」『宇都宮大学国際学部研究論集』第26号、2008年、57 - 62頁
 - (5) 飯田 貴子「ジェンダー視点から検証したアテネオリンピック期間中の新聞報道」『スポーツとジェンダー研究』第5号、2007年、31 - 44頁
 - (6) 飯田 貴子「シドニーオリンピックにおける新聞報道の分析」『日本体育学会大会号』第52号、2001年 216頁
 - (7) Jim Urquhart and Jane Crossman, : The Globe and Mail Coverage of the Winter Olympic Games: A Cold Place for Women Athletes. Journal of Sport & Social Issues May 1999 23: 193-202,
 - (8) Laura Capranica, Carlo Mingantia, Veronique Billatb, Signe Hanghojc, Maria Francesca Piacentinia, : Newspaper Coverage of Women's Sports During the 2000 Sydney Olympic Games. Research Quarterly for Exercise and Sport Volume 76, Issue 2, 2005 : 212-223
 - (9) Katherine N. Kinnick : Gender Bias in Newspaper Profiles of 1996 Olympic Athletes: A Content Analysis of Five Major Dailies. Women's Studies in Communication Volume 21, Issue 2, 1998
 - (10) 本間美和子ほか「1996アトランタオリンピック新聞報道から日本選手の弱さと課題を探る」『大学体育研究』第19号、1997年、25 - 45頁
 - (11) 石塚 創也 ほか「札幌オリンピック冬季競技大会における招致に関する新聞報道の検討—1960年から1966年における「北海道新聞」の記事分析を通して—」『日本体育学会大会予稿集』第63号、2012年、82頁
 - (12) 山本清文「ソチオリンピックにおける新聞報道の分析」『花園大学文学部研究紀要』第47号、2015年、115 - 138頁

